

山口美和●著

PT・OT のための

これで安心 コミュニケーション実践ガイド(第2版)

評者 小川克巳

日本理学療法士協会副会長/参議院議員

本書は、理学療法士や作業療法士が職務上求められるコミュニケーション力、すなわち療法士と患者や利用者、そのご家族など、またはスタッフ間における人間間コミュニケーションに焦点を当てており、それを習得するための導入から実践場面を想定した意思疎通のあり方までを具体的に解説しています。

私は33年間、養成施設で後進の育成に携わってきましたが、入学後の学生の課題は、以前の基礎学力や学習力から、人間関係や信頼関係の構築という課題へと変わってきました。特に学びの最終段階である臨床実習という対人スキルがその成否を左右する場面では、そうした課題が顕在化するため、学生指導上、教員や臨床実習指導者の悩みの種となっています。コミュニケーション力は良好な対人関係構築に大きくかかわってくるため、特に医療職にとってはきわめて重要な基本的資質とされます。私たちはさまざまな身体的・精神的不調に悩む方々を対象とし、その方々から生身の、また時には声にならない「声」を引き出し、それを専門職として解釈したうえで対応しなければなりません。病める方々の真の訴えを引き出し、十二分に理解する力が求められます。相手を理解し受け止めたうえで、自分は何をどう伝えるかを意識化するには、著者が指摘するとおり、まず自己の確立が必要となります。

教員は教員で、学生は学生で真剣に悩み、苦しむのが、コミュニケーション力の指導であり習得ですが、本書第2版の発行はそうした学生をはじめ、現場の教員や臨床実習指導者にとっても大きな福音となることでしょう。

本書の著者である理学療法士の山口美和氏は、初版(2012年)の「はじめに」で、「本書の内容は(略)、自己成長を最大のテーマとしています」と単にスキルではなく自己の成長が鍵であると記しています。

また、「こうした課題に必要なのは、自己を肯定し自ら進んで取り組む力を涵養する教育であり、実際に役立つコミュニケーション力を具体的に身につけていくことである」と、コミュニケーション力の修得に向けて果たすべき教育のあり方についても鋭い指摘をしています。

こうした確たる信念の下で、コミュニケーションに悩む学生や新人療法士に対する深い情愛をもちつつ記された第2版では、マイナーチェンジとはいえ、多くの追加や試みがなされています。「感情管理」が新たに加えられ、「非言語コミュニケーション」、「傾聴」、「敬語」などの充実化が図られています。また、学ぼうえで何とも巧妙な構成は第2版にそのまま引き継がれ、本文の奇数ページのヘッダー部分には「自分を成長させる言葉」があります。さらに第2版では「論語」からの章句を引用するなど、読者がコミュニケーション力を身につけるために必要な自己の成長のために本書を何とか役立ててほしいと願う、著者の並々ならぬ愛情をひしひしと感じさせられます。

本書は、「あなたに会えてよかった」と病める方々から言っていただけの、そういう関係を構築するための大きな助けになるものと信じます。

B5判・240頁
定価：本体2,800円＋税
医学書院刊、2016年